

若月又次郎先生のご逝去を悼み、謹んで哀悼の意を表します。

以前からかなり弱っていらつしやると伺ってはいましたが、あの心身ともに頑健そうな若月さんの御事ゆえ、必ず御快方に向かわれるものと念じていただけに、亡くなられたとの報を耳にしたとき、しばらく驚きと悲しみで一杯でした。

思えば、若月さんと私とは誕生日が二、三カ月しか違わないということを知ったのは、今から約二〇年前、にいがた県民教育研究所設立準備の最中でした。以来、体の小さい私は若月さんの側にいるだけで何か頼りがいを感じたものでした。

研究所設立準備の段階で大きな課題だったのは、当時「新潟の教育情報」と称していた機関誌の発行でした。若月さんは「論より実行」とばかり、創刊号（八三年一二月）の編集・発行を引き受けられ、第二号では裏表紙にみずから「発行人・若月又次郎」と記されました。みんなで話し合いの結果第三号から発行人を理事長名に、第一四号（八七年六月）から名称を「にいがたの教育情報」に改めたのですが、この約三年間ほど若月さんが編集に携わっておられたと記憶しています。また、その頃小出町千溝分校廃止反対運動が起こり、地域住民の意思で自主学校が開設されるに至ったのですが、理事長たる私の判断もあって、研究所は直接このような運動に関わらないということになりました。このとき、若月さんは自主学校の校長に推され全県から支援に駆けつけた先生方の先頭にたって頑張りがれました。古武士然とした若月先生のお姿が今もまぶたに焼き付いています。若月先生、なにとぞ安らかにお眠りください。

合掌

にいがた県民教育研究所 理事長 長 崎 明

